

# イノシシの管理の基本と特定計画推進のためのポイント

国立研究開発法人

農業・食品産業技術総合研究機構

平田 滋樹

## 講演要旨

1. イノシシを取巻く近年の情勢変化
  - ・ 江戸時代以前にもイノシシ被害は発生、当時の総合的な対策や土地利用、資源利用などにより被害はやがて収束、江戸時代中後期ころからシシ垣などのイノシシ対策用の構築物は放置されるようになった  
⇒被害対策等の技術の断絶、イノシシ管理の空白期間
  - ・ 高度成長期前後から土地利用や自然資源利用などの社会的変化によりイノシシの生息好適地が増加、それに伴い農作物被害等の人間との軋轢が顕在化
2. イノシシ管理に係る生態や対策の基礎情報
  - ・ 主に植物を中心とした雑食性
  - ・ 大型哺乳類では珍しい多産多死の繁殖戦略
  - ・ 高い再生産性と早い世代交代サイクル  
⇒被害管理・生息地管理・個体数管理の総合的なイノシシ管理を中、長期的に実施することが重要
  - ・ 個体数調整を実施するには捕獲手法ごとの効果や作業性、作業者の安全性確保や負担軽減、捕獲個体の有効活用や適正処理、捕獲の効果検証など様々なことに要留意
3. イノシシ特定計画の策定と運用、その評価
  - ※第二種特定鳥獣管理計画策定のためのガイドライン（イノシシ編）改訂版を熟読!!
  - ・ 順応的管理を実施するため、管理目標と指標の設定、指標に対するモニタリングの実施、それらによる特定計画の評価と次期計画への反映が極めて重要
  - ・ 特に得られたデータ（行政等の統計データ）を単純比較するのではなく、その背後にある施策や事業の実施状況、継続的なモニタリング、年度毎の詳細な年度計画や年間スケジュールの設定や進捗管理などを実施して、併せて省力化、効率化も図る  
⇒PCDAサイクルによる適正管理、順応的管理をめざす！！
4. イノシシ管理の遂行のための人材育成
  - ・ 部局間の連携や情報共有、関係機関などとの連携、国-都道府県-市町村の連携と役割分担、捕獲等従事者や認定鳥獣捕獲等事業者の育成などを積極的に実施する
  - ・ イノシシ管理やイノシシ被害対策における公助、共助、自助の推進を図る
  - ・ 研修会や講習会の開催、既存事業や既存制度の活用  
⇒例：有害鳥獣捕獲における狩猟免許を所持しない従事者容認事業  
環境省 鳥獣プロデータバンク  
農林水産省 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー制度など